

MIA 旅 春爛漫の蓼科・諏訪へ

2026年4月13日～15日(参加者12名)

今年は、MIA 創立 45 周年記念行事として、春の桜を求めて蓼科から諏訪を巡りました。

特急あずさ 13 号で昼過ぎ茅野駅に到着しました。駅に直結する茅野市美術館でホテル送迎バスの待つ間、アートを鑑賞しました。

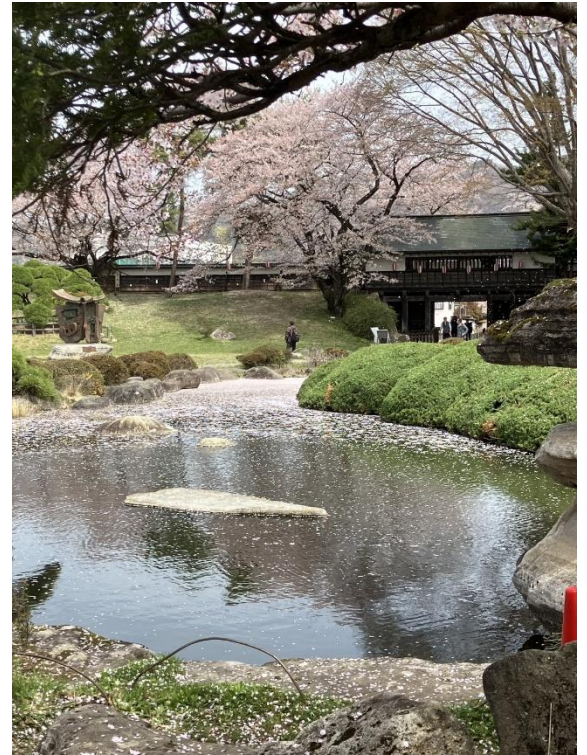
ホテルでの絶品和食の夕食後、皆一つの部屋に集まって、明日訪れる諏訪大社の御柱祭の神事をビデオ NHK 2011 年新日本風土記「諏訪」で学びました。そして飛び入りで T さんのご主人が御柱祭の木遣りの雄叫びを上げられ、その美声一同びっくり。

翌朝ホテル出発前に玄関で。



まず諏訪湖の近くの高島城を訪ねました。江戸時代は、諏訪湖に浮かぶ浮城。今は埋め立てで街中のお城です。豊臣秀吉に仕えた日根野高吉が築城。日根野氏は下野国に転封され、諏訪氏が継いで明治まで続けました。満開の桜。堀には花筏。





お城の後は、諏訪大社上社、本宮一之柱。縄文時代から、形を変えながら受け継がれてきた巨木信仰とされています。八ヶ岳の山中で選ばれた巨木は、曳行され、険しい坂を駆け降ります。命懸けで巨木に乗り、滑り下りることは、氏子にとって最高の荣誉です。そして御柱としてここに立てられるのです。



ホテルに帰ってラジオ体操。子豚の号令に従って第一 & 第二



夜は、ホテルの一室に集まり、Sさんによる桜に纏わる謡曲「忠度(ただのり)」。
「行き暮れて 木の下陰を宿とせば 花や今宵の 主ならまし」



そしてTさんによる小泉八雲の昔話の朗読「うばざくら(母娘の悲しい愛の物語)」を楽しみ、最後は徳島出身のHさん持参のCDで阿波踊りをご指導いただき、全員で踊り狂いました。

3日目は諏訪大社上社に続く古い街道に面した、
達屋酢蔵神社(たつやすくらじんじゃ)に参りました。
ここは諏訪大社上社の末社ではありますが、
御柱を自社で切り出すことができるという
由緒ある神社です。
左に立つのは御柱。



最後は、茅野駅近の老舗の味噌とどぶろくの店
丸井伊藤商店本店でお土産をゲット



天候にも恵まれ春を満喫した楽しい 2泊3日の旅でした。

京都からご夫妻で参加の K さんに文をよせていただきました。

京都—名古屋—塩尻—茅野と乗り継ぎ、エキシブのシャトルバスで MIA 旅の皆様とロビーで合流して、最高の気分でした。

出発前には「標高 1600m の高地はまだ冬の装い」と伺い、前日には一気に暖かくなって「春の装いで」とのこと。結局冬物を出し、春物を入れないうまま出発して、着たきり雀になってしまいました。食後には、翌日訪れる「諏訪大社御柱祭」に関連し、以前に放映された NHK『新日本紀行』の貴重な映像を見せていただきました。

14 日は、シャトルバスで桜満開の「高島城」と荘厳な「諏訪大社」を参拝し、午後はゆったりホテル周辺の森林の中でラジオ体操をしました。携帯や子豚型の録音器に合わせ、凜とした空気の中の深呼吸は格別でした。

15 日は、ようやく慣れかけた迷路のような廊下ともお別れです。山肌に沿って建てられた幾つもの建物や廊下から眺める冬の名残をとどめた景色は、とても優しいものでした。

茅野駅に戻り、諏訪大社の御柱に関わる「達屋酢蔵神社」へ咲き誇る草花を愛でたり、つくしやのびるなどの摘み草をしながら、そぞろ歩きを楽しみました。